



諦めた時が失敗である



稲盛和夫氏は、電気機器メーカー京セラの創業者であり、2000年10月携帯電話AU-KDDIを設立、2010年2月破綻した日本航空（JAL）の会長に就任、2年7ヶ月で再上場を果たし再建に成功、数々の偉業を成し遂げます。また私財を投じて京都賞を創設し人類社会の進歩発展に功績のあった人を表彰、多くの人から尊敬され経営の神様と呼ばれています。

私はそのような稲盛氏に京セラを通じて、2004年10月開催予定のリーデンローズでの講演を依頼し、稲盛氏から快諾を得ました。後に、京都賞の秋の授賞式と日程が重なって、京セラから日程変更の打診があり、変更が困難であったことから、結局福山での講演は実現しませんでした。27歳の時、社員8人で京セラを起業した稲盛氏の人生は、挑戦と改革の連続です。

人生は一度切り、すねて文句を言って腐っていても、良いことは何一つない。稲盛氏の成功者としての快進撃は、ここから始まります。一心不乱に研究に打ち込み始めると、次から次へと成果が出るようになったのです。稲盛氏は40代の頃から、旧知の禅寺住職と親交を深め、65歳で得度します。経営者でありながら、世の為に求道者としての道も求める境涯になったのです。

稲盛氏の言葉には、禅に近いものがあります。「世の中に失敗というものはない。諦めた時が失敗である」として続けることの大切さ、継続の力を語ります。これは「学道は火を鑽（き）るが如（ごと）し」という禅僧*夢想疎石（むそうそせき）の言葉から来ています。ただ継続するといっても続けることは難しく、事を成就させるには、火起こしのような忍耐が必要です。

火をつける大変さ、このくらい学道の道は厳しいから、この苦勞を胸に刻んで継続せよということです。努力の継続に対して、成果は比例して伸びていきません。この過程で多くが脱落します。継続して成功するか、途中で諦めて失敗するか、それはあなた次第です。努力に対して、結果はずっと後ろ倒しについて行きますから、工夫しながら、継続していくことが大事です。

高い目標を達成することは容易ではありません。稲盛氏の言葉から、出来る出来ないは能力の差ではなく、まさに執念の差である、ということです。